

会員の広場



OKバジと一緒に

垣見一雅さん、

ネパール国で25年のボランテイア活動

田川 修司（東京）

「OKバジ、ナマステ」沢山の子供達が走り寄ってきて人なつこく大きな声で挨拶をします。大人たちは、両手を合わせて感謝を込めて心の底から「OKバジ、ナマステ」合掌オジギをします。OKバジは、「体は大丈夫ですか」「仕事は上手くいっていますか」とか、一人、一人の名前・いろいろな事柄を全て覚えていて、そして流暢なネバ

ール語で話をしています。ビックリです。「ナマステ」ヒンディー語で「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」、「さようなら」一語でほとんど全ての挨拶の言葉をまかなえます。しかし、挨拶だけではなく、そこにはもっと深い意味があります。敬意や尊敬を表す言葉であります。日本人にも馴染み深い「南無阿弥陀仏」の「南無」の語源になっている言葉です。日に焼けて皺が刻まれた穏やかな笑顔とかざらない人柄の垣見一雅さん。山登りが大好きで、女子学園で英語教師をしていた時、ヒマラヤ登山に行き雪崩に遭い、同行のポーターが亡くなってしまいました。彼の村を訪ねると厳しい条件の中で暮らす人々の姿を目の当たりにして、54歳の時に退職を決意。ネパールのバルパ郡で草の根ボランテイアとして一人活動を始めました。ネパール語が話せなかった頃、村人達の窮状を聞いて、「OK、何とかしてみるよ」と英語で応えていた為、いつしか子供達から「OK



タンセンでの25周年式典のOKバジ

バジ(おじいさん・Baji)と呼ばれるようになり、村に学校を建て、病人に治療費を援助したり人々が困っている事柄を援助しています。ネパールの雨季には来日して全国を歩き、講演などで集めたお金は全て村々の貧しい人々に届けて人生の全てを捧げています。私達が、タンセンに着くと、OKバジの張りある「ナマステ」という声。「よく来られましたね」という暖かい労いの言葉に迎えられました。明日(3月14日)は、OKバジのネパール在住25年間にわたる貢

献に対してバルパの皆さんが感謝する「OKバジ在ネパール25周年記念式典」の日です。当日は、バンド(ゼネスト)で道路封鎖され、各地との往来が不可となり、支援先の村人たちは感謝会に来られなくなりましたが、しかし皆さんいろいろ工夫して約八千人が参加してきました。式典の街のパレードは、音楽隊を先導に5人のクマリ(処女神)そして花のレイで飾られた車、OKバジはトピー帽、首には朱色のスカーフ、同柄のピンク地の民族衣装、赤色のベルトを装いネパールの正装で登場、日に焼けて真黒な顔ですが、満面の笑みで歓迎の人々に手を振って応えていました。式典では、バジが手助けした171校の校長が列をなし、感謝のレイの花でバジの顔が埋まっゆきまし。この式典に日本の支援者として参加出来る最高の幸せでした。この後、約二週間のOKバジとタンセンの山奥の村々の支援事業巡りについてはまた報告したいと思います。